

学 位 論 文 要 旨

氏 名	白 銀 平
題 目	中国における水産物輸出企業の経営組織に関する研究 (A Study on Management and Organization of Fisheries Exporting Companies in China)

中国の漁業生産は改革開放以降急速に発展し、1989年には世界第1位の生産量に達した。中国経済のグローバル化が進展する中、水産物輸出は著しく拡大している。

中国水産物の輸出が拡大したのは「人件費の安さ」が主要な要因である、と既存研究では指摘されてきた。しかし、低賃金によるコスト競争力の強さだけで近年における急速な水産物輸出の拡大を説明できるか疑問である。そこで本研究では、中国水産物の輸出拡大を担う中国輸出企業の経営組織に着目し、それが彼らの競争力にどのような影響を与えているのかを明らかにするために、実態分析を試みた。研究対象は、中国の水産物輸出の代表的な品目であり、近年急激に対日輸出を拡大してきたウナギ、ワカメ、エビの輸出企業である。

ウナギ輸出の事例では、第1に輸出企業を中核とする小規模養殖経営体の組織化・統合化が進むことによって大量生産が実現され、同時に小規模養殖経営体による海外市場へのアクセスも確保されたこと、第2に統合化により、市況に基づいた生産調整と、競争的生産の抑制が実現され、経営リスクの軽減に寄与していること、第3に統合化は流通マージンの削減、加工工場の稼働率の向上、経営資源の効率的運用、および製品の安全性確保をもたらす経営基盤の強化に繋がっていること、などが明らかとなった。ワカメ輸出の事例では、第1に輸出されるワカメ製品の加工過程においては、急激な効率化が進められていること、第2に日本市場では製品の品質や安全性、衛生管理に対する意識が強く、それに応えられるような生産・加工過程の構築・再編成が不可欠なこと、第3に養殖ワカメ生産者の多くは加工企業の一請負部門であるか、固定的な契約関係によって系列化されており、加工部門を中心に養殖業・加工業・輸出業までの垂直統合化が進んでいること、などが明らかになった。エビ輸出の事例では、第1にエビの養殖場と加工業との関係が主に垂直統合化されていること、第2に小規模養殖経営体はこれまで資材供給産業や薬品会社等との協力体制を持たず、生産技術の刷新や生産性向上が進みにくかったが、統合化により生産関連諸部門との関連性が強まり近代化が進んだこと、などが明らかとなった。

以上、本研究では3つの事例分析を通じて以下の2つのことを明らかにした。第1に、中国の水産物輸出企業は国際市場への輸出を前提としており、生産部門と加工部門を垂直統合化した経営組織を形成していること、第2にこうした垂直統合化によって加工部門の効率性と輸出市場対応力が高まっており、こうした経営組織の変革こそが水産物輸出を拡大してきた決定的な要因であること、の2つである。すなわち、中国の水産物輸出企業が有する国際競争力は単に賃金水準格差だけに依拠したものではなく、経営の効率性を目指した経営組織再編によってもたらされていることが本研究により解明された。

学 位 論 文 要 旨

氏 名

BAI YINPING

題 目

A Study on Management and Organization of Fisheries Exporting Companies in China

(中国における水産物輸出企業の経営組織に関する研究)

With the economic reform policy, Chinese marine products industry has developed dramatically. In 1989, China has grown to become the largest marine products producer in the world, and it has maintained the position until now. With the globalization of the economy, China's export volume of marine products has increased rapidly, mainly to Japanese market.

Many previous researches showed that a low labour cost is the major factor in the increase of marine products' export there. This study suggests that the main cause in keep the competitive advantage towards international market of marine products is not only the lower labour cost, but the operation and management strategy of the Chinese exporting companies. Particularly, this study considers the impacts of the elements, excluding the lower labour cost on the competitive exporting companies, by analysing three major exporting marine products, such as eels, seaweeds, and prawns.

For eel industry, three factors were found to be beneficial to its competitiveness. First, market coordination and integration between small sized growing plants based on exportation has resulted in economy of scale, and the coordination and integration also helps the small eel growing plants to be able to access to the international markets; second, integration helps growing plants to adjust their production capacity according to market demand, which avoids hostile competition between companies so as to reduce market risks; third, integration helps to reduce distribution costs, which in turn improves the cash flow, resource allocation, quality of products, and cooperation between companies.

For seaweeds industry, the findings are: 1. Capitalization helps firms which produce dry seaweeds products to improve its productivity. 2. The Japanese market has a higher requirement on product quality and safety, which has forced the Chinese seaweeds producers to reengineer their productions and fabrications. As a result, the Chinese seaweeds producers have improved their competitiveness. 3. Seaweeds growing plants have set up strategic partnerships with fabrications and exportation companies; this vertical integration makes an affective production value chain and helps to reduce costs and risks.

For prawn industry, vertical integration has been set up between growing plants and fabrications, and this integration helps to effectively coordinate between prawn growing plants and supportive organizations such as R&D institutes, raw material providers, and drug companies.

In conclusion, the Chinese exporting companies of marine products advance the vertical integration of the process of their production, processing and exporting as well. The vertical integration is the critical factor for their rapid expansion of marine products export. Also it enhances the efficiency of the processing and establishes the production and processing system that reacts to the international market successfully.

学位論文審査結果の要旨	
学位申請者 氏 名	白 銀 平
審査委員	主査 鹿児島大学 教授 島 秀典
	副査 鹿児島大学 准教授 佐久間 美明
	副査 鹿児島大学 教授 岩元 泉
	副査 佐賀大学 教授 白武 義治
	副査 鹿児島大学 教授 佐野 雅昭
審査協力者	
題 目	中国における水産物輸出企業の経営組織に関する研究 (A Study on Management and Organization of Fisheries Exporting Companies in China)
<p>中国経済は、1978年の改革・開放政策の導入を契機として、著しい発展を遂げている。水産業の発展も顕著であり、特に水産物輸出の拡大は目覚ましく、強い国際競争力を持つに至っている。その主要な要因として、「人件費の安さ」（いわゆる低賃金構造）が既存研究において指摘されている。しかし、低賃金によるコスト競争力の強さだけで近年の急速な中国水産物の輸出拡大を説明できるものではない。</p> <p>本論文は、このような問題意識から、特に中国水産物の輸出拡大を担う輸出企業の経営組織に着目し、どのような組織改革が国際競争力の強さの源泉になっているのか、その要因を統計分析と実証分析を駆使して解明している。研究対象は、中国の輸出水産物の代表的な品目であるウナギ、ワカメ、エビの輸出企業である。</p> <p>本論文は6章から構成されている。第1章では、中国の水産物輸出の競争力に関する既存研究の整理と本論文の問題意識及び分析視点を明確にしている。第2章では、改革・開放政策導入以降の中国経済の発展と変化について、マクロ経済学の視点から分析するとともに、中国水産業の発展と変化を多面的視点から追究し、水産物輸出の拡大状況</p>	

を時系列的に分析している。第3章から第5章までが本論文の柱であり、ウナギ、ワカメ、エビの輸出企業の事例分析を行っている。第6章は、本論文の取り纏めである。

ウナギ輸出企業の事例では、加工ウナギの輸出が圧倒的に多く、加工部門を中心とした養殖・輸出部門の統合化あるいは契約取引による養殖部門の系列化によって、第1に小規模な養殖業者が組織化され、大量生産体制と海外市場へのアクセスが確保されたこと、第2に市況に基づいた生産調整と競争的生産の抑制が実現され、経営リスクが削減されたこと、第3に流通マージンの削減、加工場の稼働率の向上、経営資源の効率的運用、及び品質の向上と安全性の確保をもたらし、経営基盤の強化に繋がっていること、などを明らかにしている。ワカメ輸出企業の事例では、乾燥カットワカメによる市場拡大を企図して、第1にワカメ製品の加工過程において、工業的な加工プロセスの導入など、急激な効率化・合理化を進めたこと、第2に日本市場ではワカメ製品の品質や安全性、衛生管理に対する意識が強く、それに応えられるような生産・加工体制の構築・再編成が不可欠であったこと、第3に加工部門を中心に、養殖・輸出の各部門を垂直統合化することによって、養殖ワカメ業者の組織化を推進したこと、などを明らかにしている。エビ輸出企業の事例では、主にクルマエビ養殖が中心であり、第1にエビの養殖場と加工業との垂直統合化が急速に進展していること、第2に小規模な養殖業者はこれまで資材供給産業や薬品会社との協力体制を持たず、生産技術の刷新や生産性の向上が進みにくかったが、統合化により生産関連諸部門との関連性が強化され近代化が進んだこと、などを明らかにしている。

以上、本論文では中国の代表的な輸出水産物を事例として実証研究を行った結果、次のようなことが解明できた。すなわち、第1に、中国の水産物輸出企業は国際市場への輸出を前提としており、加工部門を中心に生産部門等を垂直統合化した経営組織を形成していること、第2に、こうした垂直統合化によって加工部門の効率性と輸出市場の対応力が高まっており、このような経営組織の改革こそが水産物輸出を拡大してきた基本的な要因であること、である。本論文は、既存研究における「低賃金」依拠の見解に対して新たな知見を加えた斬新な論文であり、中国政府の政策的主導の下、経営の効率化を目指した垂直統合の経営組織によって、低価格に加えて高品質の製品を輸出するという国際競争力の強さを持つに至ったことを解明したことは学術的に高く評価できる。したがって、審査委員一同は本論文が博士（水産学）の学位論文として十分な価値があるものとして判定した。

最終試験結果の要旨	
学位申請者 氏 名	白 銀 平
審査委員	主査 鹿児島大学 教授 島 秀典
	副査 鹿児島大学 准教授 佐久間 美明
	副査 鹿児島大学 教授 岩元 泉
	副査 佐賀大学 教授 白武 義治
	副査 鹿児島大学 教授 佐野 雅昭
審査協力者	
実施年月日	平成20年1月12日
試験方法 (該当のものを○で囲むこと。)	
(口答)・筆答	
<p>主査及び副査は、平成20年1月12日の公開審査会において学位申請者に対して、学位申請論文の内容について説明を求め、関連事項について諮問を行った。具体的には別紙のような質疑応答がなされ、いずれも満足できる回答を得ることができた。</p> <p>以上の結果から、審査委員会は申請者が博士（水産学）の学位を受けるに必要な十分の学力ならびに識見を有すると認めた。</p>	

学位申請者

氏名

白銀平

[質問1]中国産鰻と台湾産鰻の価格差は9%程度とのことであるが、中国の人件費は台湾の10分の1に過ぎないことを考えると差が小さいのではないか？

[回答1]貿易統計等の公的データでたしかにこのような結果になっている。経費の中で人件費が占める割合がそれほど高くないこともあろうが、この様な価格設定にすることで中国の企業は収益力を上げていると考えられる。

[質問2]ワカメとエビの事例で、統合化によって経営リスクが削減されたとしているが、どのような理由か？

[回答2]寡占化で競争条件が抑制されたこともあるが、トレーサビリティが徹底し、品質が悪いものを出荷しないようにしてクレーム等が減ったことが大きい。

[質問3]完全統合による新たなリスクもあるのではないか？

[回答3]輸出量の減少や輸出価格の下落などが起これば、完全統合化によってリスクは高まることも考えられる。

[質問4]台湾や韓国の水産物輸出企業は統合化していないのか？

[回答4]本論文で取り上げたウナギやワカメに関しては統合化していない。

[質問5]論文中で使われている「合併会社」という用語は、「合弁会社」とは異なるか？

[回答5]海外資本と中国資本が出資して設立した会社で、合弁会社と同様の意味である。

[質問6]輸出企業の産業組織は、他とは違うのか？

[回答6]輸出するために、安全安心に対応できる産業組織として統合化を進めてきた経緯がある。調査事例でも国内向け製品は契約した養殖場からの製品を使い、輸出向けは検査が充実して品質が高い自社の内部組織で養殖した製品を使うなど、輸出企業の場合は経営統合化の必要性が高まっている。

[質問 7] 輸出会社が加工業に乗り出したのか、それとも加工業者が輸出や養殖にも乗り出したということか？

[回答 7] 加工業者が輸出なども始め、養殖業者を統合化する方向で動いている。

[質問 8] 為替レートはどうなっているか。論文の中で記載した方が良い。

[回答 8] 以前はドルで固定化されていたが、近年、変動制になっている。論文の中で述べておきたい。

[質問 9] 農業の例であるが、自社内で生産管理した製品は安全であろうということで、直営農場を作ったがうまくいかず、契約農場の農産物を買ったほうが経済的に良いということになった中国の野菜加工企業もある。完全統合化は、もともと自分のところに養殖場がある場合に可能になる、ということはいえないか？

[回答 9] 調査した事例においても元々養殖場を持っていた企業が完全統合化を進めやすい傾向がある。さらに検討を進めたい。